



一緒に仕事をしてくれています。現在進めている仕事は、櫛の作品が泉大津の大修理もので、他の彫師さんと一緒に遣らせて貰っているもので、今年中に仕上げます。櫛の物は地元の川面町の石川型の新調地車のもので、こちらは、来年の九月にお納めするもので、一台の彫刻を私が彫刻責任者として手掛けています。「天の岩戸」や氏神様である美具久留御魂神社（みぐるみたま）の主神の大国主命（おおくにぬしのみこと）の謂れ、「支子（きし）」の森から大蛇が出て里を荒らす……」を崇神（すじん）天皇自ら視察して、「こは大国主命の荒御魂（あらみたま）の荒ぶるなり、宜しく祭るべし」の謂れを題材にしたもの等、川面町ならではの伝承されている話を取り入れるように、町の方々の意向をお聞きして、作品

作りをしています。今まで手掛けさせて貰った作品一つ一つが、一期一会の気持ちで彫らせて頂いた地車が、年に一度の祭で町の皆さんに曳いてもらう姿を見れる事を本当に嬉しく思います。

地元の地車が看板地車に

富田林市川面町の新調地車を任せて貰って、昨年12月から作品を手掛けています。昔から、南河内、富田林、河南町、千早赤坂村、狭小では松造りの石川型の地車が多く、今回の川面町の地車も石川型の松造りです。



出すために、彫り込んだ作品の前に人物等の彫刻を作り付けていきます。一方、泉州地域のものは櫛造りで腰廻りの彫刻がメインで、彫刻は奥へ奥へと奥行きのある作品に仕上げ、地域によって見せ方も違います。

細かい細工は櫛の方がやり易いですね。松は柔らかいので細かい細工には苦勞します。櫛を彫っ